

ぼくはスケラッコのマンガ出身。

でもここからはスケラッコの絵本で育った子がスケラッコのマンガを手にするようになるゴールデンコースもあって、「おれ、スケラッコの絵本読んでもらったで」なんて言っちゃう子もでてくるのか、素晴らしいなあ耳にしてみたい。

2019年、スケラッコさんが絵本を出した記念すべき年。乾杯&祝杯。

(ふたば書房 御池ゼスト店 清野龍さん)

『盆の国』『大きい犬』『平太郎に怖いものはない』など数々の傑作を生み出してきた漫画家スケラッコさんによる初の絵本は、かわいらしいキャラクターやワクワクドキドキするような表現、優しくて不思議な世界観などスケラッコさんの魅力が詰まった1冊に。子どもだけではなく年齢層関係なく楽しんでもらいたい絵本です。

(青山ブックセンター本店 本田翔也さん)

小さな頃、知らない町の神社のお祭りに行った。友達もいない、大人も知らない人ばかり。祭りに浮かれた見知らぬ町の人たちとお囃子の喧噪のなかで、小さな恐怖と、でも「さきにいかずにいられない」そんなワクワク感がよみがえってきました。

画面のすみずみまで描かれた「おまつりの町」の異形の人々、つくりものや屋台。子ども達が指差しながら楽しむ姿が目には浮かびます。小さな冒険を終え、いつもの公園に帰ってきたマツオを迎えるのどかな風景のちょっとした変化も、子どもたちはきっと見逃さないでしょう。

(ブックギャラリーポポタム店長 大林えり子さん)

ある日学校の帰り道 マツオは笛の音に導かれ 踏み込んだのは不思議な道のり

さきにいかずにいられない 赤い提灯の向こうがわ たどり着いたのは「おまつりの町」

毎日おまつり 雨でもおまつり 今日もおまつり「おまつりの町」

見たことあるよな ないような いきものたちがわらわらと 色と音の洪水のなか 歌って食べて踊ってる

場面びっしり描きこまれた おまつりの様子がたのしげで 目を見開き皿にして

なめるように覗き込む 見つめ続けずにいられない にやにやせずにいられない

よくよく見ると あちこちで 激写しているカメラマン 探してみてね ほらいるよ

おまつりの町から マンモス公園 帰ってはきたけれど 同じようで少し違う どこか違う ほんのひとときの白昼夢

どこからともなく笛の音 聞こえてきたら 行きたくなる

心踊らずにいられない 大好きにならずにいられない

絵本を開けばそこは「おまつりの町」

(MARUZEN&ジュンク堂書店梅田店 森口泉さん)

この絵本には「ふしぎ」と「なつかしい」と「ちよいこわ」が含まれています。どうぞ暑いうちにお読みください。

(ホホホ座 山下賢二さん)

スケラッコさんの描く、いろいろな人や生き物が当たり前そこにいて
当たり前動いていく世界が大好きです。

この絵本ではその感じが爆発してて最高です！わくわくしますね。

(FOLK old book store 吉村祥さん)

どれほど荒唐無稽な世界を描こうと必ず生活と地続きにある、というところがスケラッコ作品の愛おしさ。パラレルワールドにも電気屋や書店はあるし、おばあちゃんちで食べた焼き肉の味がマツオを現実世界につなぎ留めてくれる。必ず戻ってこれる安全な冒険、ということばが揶揄ではなく長所として機能する牧歌的ファンタジー。

(誠光社 堀部篤史さん)

ヴィレヴァンでも超売れっ子漫画家のスケラッコさんが描く絵本はどんな世界に連れて行ってくれるかな？

とページをめくっていくいつもの現実を一步飛び越えたような世界に迷い込み、

ふしぎな世界、かわいい？生き物、おいしそうなお食べ物が絵本ならではの大きな画面にサービス多めにワッシュョイしてる！

スケラッコファンの大人はもちろん、子どもと一緒に楽しく読みました。…ん？あれ、そういえばウチには子どもいないんだけどな。誰だったんだろ…。

(ヴィレレッジヴァンガード下北沢 長谷川朗さん)